



# 「劇場へ行こう!」に先駆けて、もうひとつの開館1年前カウントダウン企画である「いどばたシンポジウム2022」が行われた。

劇場が、建物内の舞台だけでなく、まちに出て、市民やアーティストとともに演劇やダンスをつくり楽しむことによって、何が生まれるのかが話し合われた。



## Theme1 「劇場へ行こう!」について

大谷 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思



## Theme2 まちの人々とアーティストの関係は?

有門 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思



## Theme3 地域のとらえ方、拠点の価値

大谷 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思



## Theme4 演劇で、ダンスで、まちを楽しむ

有門 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思

## 「人をつなぐ」を

加賀田 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思

## 「まちをつなぐ」を

大谷 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思

## 「まちをつなぐ」を

大谷 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思

## 「まちをつなぐ」を

大谷 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思

## 「まちをつなぐ」を

大谷 今回の「劇場へ行こう!」の演出・振付の北村成美さん、しげやんとは、1990年代、コンテンポラリーダンスをどう表現していくかと考えていたアーティストたちの中で、しげやんは積極的にいろいろな機会に出て、身を投じて出すようにダンスをやっていた。しげやんの財産だと思

# いどばたシンポジウム2022

「劇場へ行こう!」に先駆けて、もうひとつの開館1年前カウントダウン企画である「いどばたシンポジウム2022」が行われた。

いどばたシンポジウム2022「演劇で、ダンスで、まちを楽しむ」

いどばたシンポジウム2022「演劇で、ダンスで、まちを楽しむ」

いどばたシンポジウム2022「演劇で、ダンスで、まちを楽しむ」

いどばたシンポジウム2022「演劇で、ダンスで、まちを楽しむ」

いどばたシンポジウム2022「演劇で、ダンスで、まちを楽しむ」



YouTube URL  
アーカイブ配信中



登壇者のプロフィールはこちら

岡山芸術創造劇場 ハレノワ  
岡山市民会館と岡山市立市民文化ホールに代わる、新しい文化芸術施設。「魅せる」「集う」「つくる」というコンセプトを掲げ、優れた舞台芸術作品の鑑賞、アーティストと市民が出会う体験型ワークショップなどでの交流、演劇・ダンスの作品創りなどを行う。

https://okayama-pat.jp  
岡山芸術創造劇場 ハレノワ  
Okayama Performing Arts Theatre, Harenowa



Osaka Symposium 2022: Enjoying the town through performance and dance. Prior to the 1st Osaka Symposium, artists and producers from all over the country presented about their works at the Osaka Symposium 2022. Panelists also discussed the benefits of taking performing arts out of the theater and into the community to enjoy collaboratively creating performances and dances with citizens and other artists.